



## インドネシア人が旅した日本

### 1. はじめに

私は、プライベートやビジネスで何度も日本を訪れています。その度に、日本の町並み・文化に触れてきました。しかし、日本は私を飽きさせません。日本には、私を引きつける場所がまだまだたくさんあります。一度の日本滞在では、私の心満たす十分な時間を取れないのが悩みの種です。

私をここまで引き付ける日本という国は、多くの点で私の母国インドネシアと異なります。特に、「四季」の存在。残念ながらインドネシアには「四季」という概念が存在しません。そのため、私は、春夏秋冬の日本を全て堪能したいと思っています。

他にも、日本の魅力的なコンテンツは山ほどあります。神社、寺院、公園、伝統文化、景観、風景、そして、近代都市。これらは、インドネシア人の私にとって、大きなテーマパークに備えられた一大アトラクションと言えます。

### 2. 京都

2017年4月、私は休暇を取って、家族と共に春の日本を訪れました。花見の季節を味わいたかったからです。この時期は、日本の観光シーズン。日本のどこの観光スポットに言っても、多くの観光客で賑わっていました。

はじめに訪れたのは京都。京都の桜を眺めたかったのです。京都に行ってみると、あちこちに桜並木が。特別な桜スポットを探す必要はありませんでした。街全体が私たちに花見を味あわせてくれたのです。

京都の歴史文化遺産にも触れました。伏見



【写真1】京桜

稲荷大社の赤社には驚きました。数々の社をくぐる「ハイキング」はとても印象的な体験でした。

祇園では、着物を来た女性がたくさんいました。インドネシアでは着物のような服装に出会うことはないのです、その艶やかさに目を奪われました。多くの女性観光客が着物をレンタルして街を歩いていました。

日本の女性と言えば、「ゲイシャ」にも会いました。そこは、多くの日本の伝統的なレストランが立ち並ぶ子路。通り沿いの建物は



【写真2】伏見稲荷



【写真3】京都の町を歩くゲイシャ

木製2階建ての建物でした。そこで、幸運にも、花魁をつけたゲイシャに会うことができました。話には聞いていましたが、本当に顔を真っ白にしているのだと驚きました。

### 3. 白川郷

京都の次に向かったのは、ユネスコの世界遺産に選ばれた白川郷。伝統的な日本家屋をこの目で見るためです。道中、牧歌的な日本の風景を見ることができました。京都とはまた違った趣を感じました。ユニークな合掌造りの集落は、是非インドネシアの友人に勧めたいと思います。次の機会があれば、もう一度白川郷に戻ってきたいと思いました。



【写真4】白川郷の日本家屋

### 4. むすび

東京や大阪はビジネスで何度か訪問していたので、今回は、より日本を味わえるプランを立てました。そして、日本での体験の記憶が冷めやらぬ間に、早速次の日本旅行の話家族としています。まだ知らない日本を探す旅をこれからも続けていきたいと思っています。

#### 著者紹介

##### Mr. Rohaldy Muluk (ロハルディ・ムルック)

Chapter One IP代表。1954年バダン西スマトラ州生まれ。ベルリン工科大学卒業。専門は物理・機械。エンジニアとしてドイツで17年過ごした後、2004年より知的財産分野のキャリアをスタート。2009年コンサルタント試験合格。趣味はスポーツ。<http://www.chapterone-ip.com/>

#### 編訳者紹介

##### 木本 大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部年、特許事務所年の経験を経て2013年月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>